

九州工業大学における教育職員の評価について
平成27年度（2015年度）実施分

— 平成28年2月 —
九州工業大学

目 次

I	はじめに	P1
II	教育職員評価の実施方法の概要	P2
III	評価結果について	P3
	1. 教育職員評価の申請状況	
	2. 5段階の総合評価：全体（292人）の割合と職階分布	
	3. 5段階の総合評価：職階別（人数・割合）	
	4. 評点分布	
	5. 職階別評価平均点	
	6. 前回実施との比較	
	1) 総合評価：職階別比較	
	2) 重み：職階別比較	
	3) 職階別総合評価平均点	

I はじめに

平成 27 年度に実施した教育職員評価の結果をとりまとめましたので、評価方法と併せて公表いたします。

本学では、3年に一度教育職員評価を実施し、「改善を要する」、あるいは「改善の余地がある」と判断した教育職員に対し指導・助言による改善を支援し、「適切である」と判断した教育職員に対しても必要に応じた助言により更なる向上を支援し、また、優れている教育職員の適切な認知により意欲を高め、これらを通じて教育職員全体の教育研究等の水準向上に努めてきました。これは本学のステークホルダーである学生とその保護者、教職員、地域社会等の満足度の向上、さらには本学の評価の向上につながるものと考えています。

このような考え方にに基づき、平成 26 年度において、平成 24 年度の教育職員評価時のアンケート結果を念頭に置き、また教育研究の現場とも2往復の意見のやり取りをし、さらに、戦略会議、教育研究評議会でのご意見に加えて経営協議会での学外意見も反映できるよう、大学評価委員会において評価方法の見直しについて慎重に議論を積み重ねてきました。

4回目となる平成27年度の教育職員評価においては、基本的な考え方は維持しつつ、大学に対する社会の期待に答えるべく、いくつかの修正を加えました。第一に、グローバル化に向けての貢献をより適切に評価するため、教育、研究、社会貢献、管理運営の各領域に渡って自己申告欄に活動状況を記載戴きました。第二に、平成24年度にSS, S評価の一部に導入した研究の質の評価を、研究領域の評価に試行的に導入しました。すなわち、研究の質の評価の近似指標として、Web of Science掲載の論文数、及び被引用数を採用しました。ただ、予告期間が必要であることを考慮し、これらの指標値を提示するに留め、本格的な導入は平成30年度からとしました。なおこの中で、分野が異なってもできるだけ公平に評価できる方法を開発し、用いることとしました。これは「平成26年度に係わる業務の実績に関する評価結果」の中で、注目される取り組みとして取り上げられました。第三に、社会に対する積極的な情報公開が要請されていることに鑑み、日本語版及び英語版の研究室ホームページの作成状況を評価対象とすることとしました。これについても、予告期間及び大学による支援の必要性を考慮し、実際の導入は平成30年度からとしました。

教育職員評価を単なる評価に終わらせず、教育職員が自らを省みて今後の改善を思慮するためのポートフォリオとして活用できれば、実質を伴ったPDCAサイクルが実現し、教育研究等の改善につながるものと確信しています。今後、このような目的にも活用していくことを念頭に置きつつ、教育職員評価の改善に努めて参りたいと考えています。

大学評価委員会委員長
石川 眞澄

Ⅱ 教育職員評価の実施方法の概要

1. 教育職員評価の目的

評価に基づく教育職員の序列化が目的ではなく、評価の高い者にはインセンティブを与えて良い所を一層伸ばし、低い者には改善のために適切な指導・助言を与えることにより、教育職員全体の教育研究水準の向上を目的とする。

2. 評価実施年度（平成 18 年度より 3 年ごとに実施）

第 1 回	平成 18 年度	第 3 回	平成 24 年度
第 2 回	平成 21 年度	第 4 回	平成 27 年度

3. 評価対象及び期間について（教育・研究・社会貢献・管理運営）

教育、社会貢献、管理運営：過去 3 年度分（平成 24 年度～平成 26 年度）

研究：過去 5 年度分（平成 22 年度～平成 26 年度）

4. 評価実施方法

「大学評価用 DB システム」のデータを活用するとともに、評価申請者、評価実施組織の担当者双方の評価関係作業の効率化を図る観点から、「教育職員評価用システム」により、教育職員評価を実施

5. 評価手順

- ①各教育職員は、大学評価用 DB システム及び教育職員評価シート（Excel ファイルでダウンロードとアップロードが可能。）にデータを入力し、評価申請
- ②評価実施組織の担当者（各部局等内の複数人）は、4 つの評価の領域（教育、研究、社会貢献、管理運営）ごとに、7 段階の領域別評価を実施し、評価者コメントを記載
- ③各評価実施組織で SS、S 評価（70 点、60 点）に該当すると判断された評価項目については、全学的視点から、学長、理事、部局等の長が協議
- ④部局の長及び各センター長、又は学長及び理事は、自己申告及び評価実施組織の担当者が行った領域別評価、SS、S 評価についての全学的協議結果を勘案し、
「特に優れている」
「優れている」
「適切である」
「改善の余地がある」
「改善を要する」
の 5 段階評価を決定。併せて申請内容に対するコメントを記載
- ⑤評価結果を各教育職員に内示。評価結果に対し、異議がある場合は、意見の申し立てが可能
- ⑥評価実施組織の担当者は、意見の申し立てについて検討を行った上で、学長に報告後、最終的な評価結果を決定し、各教育職員に通知
- ⑦「改善の余地がある」又は「改善を要する」という評価を受けた教育職員は、改善計画書を提出。「適切である」と判断した教育職員についても必要に応じて部局長等の助言により更なる向上を支援

6. 評価結果の活用

- ①「改善の余地がある」又は「改善を要する」と判断した教育職員に対しては改善計画書の提出を求めるとともに、部局長等が必要に応じて改善措置等のフォローを行う。
- ②部局単位での業績等評価配分経費に反映する。
- ③昇給等（勤勉手当含む）の推薦に評価結果を反映させる。ただし、評価結果が真の評価の近似であることを考慮し、より真の評価に近づけるため、部局長等は評価結果の反映を調整できるものとする。
- ④特に優れた評価を受けた教育職員については表彰を行う。

Ⅲ 評価結果について

1. 教育職員評価の申請状況

(単位:名)

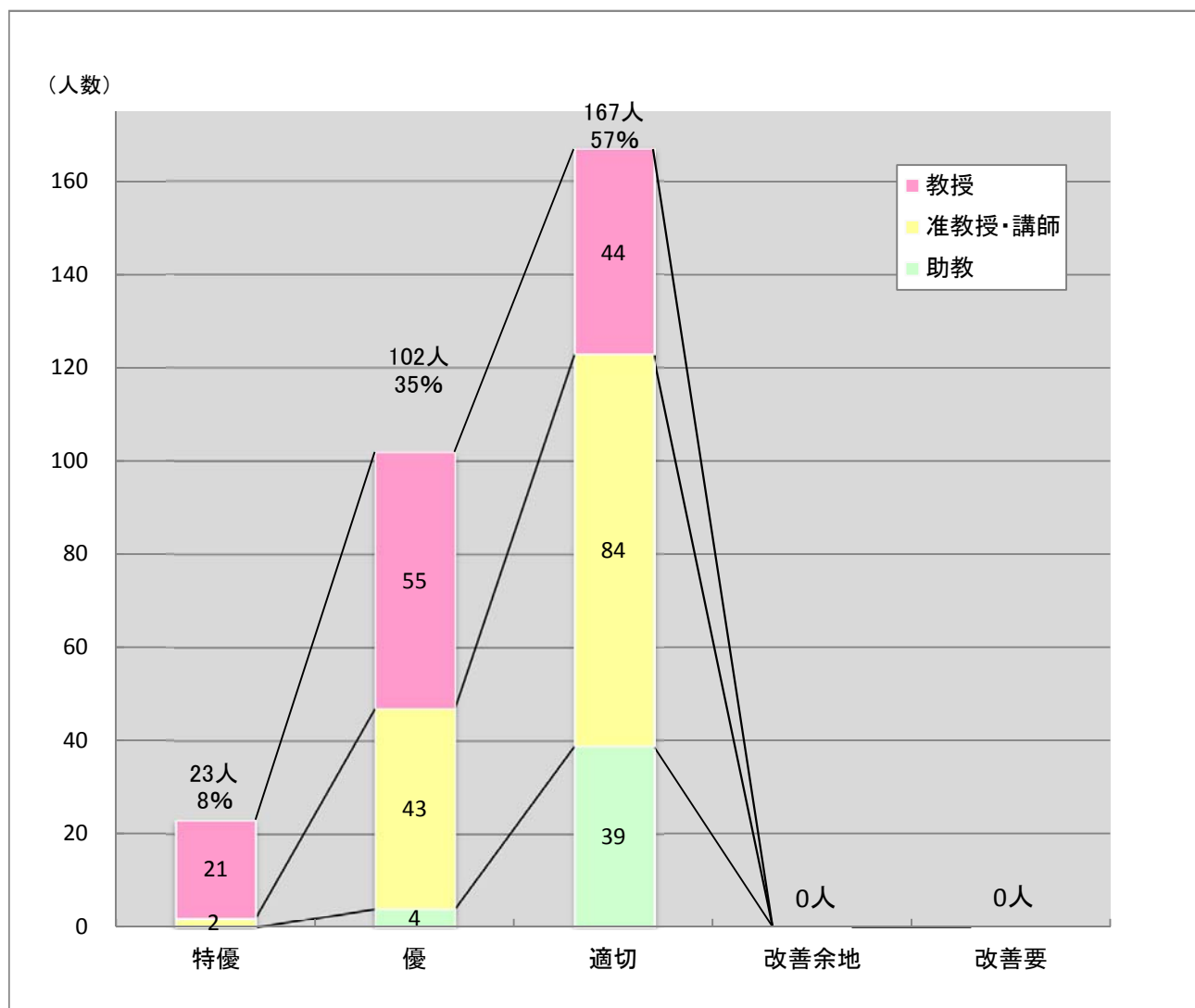
部局	研究系・専攻名	2015/4/1在職者				非対象者			評価対象者	免除申請者	評価希望者	評価対象者(確定)	未申請者	申請者
		教授	准教授・講師	助教	計	在職3年未満	任期付き	専門職教員						
大学院 工学研究院	機械知能工学研究系	14	9	6	29	3	0	0	26	0	0	26		
	建設社会工学研究系	9	7	1	17	2	0	0	15	0	0	15		
	電気電子工学研究系	11	11	7	29	1	0	0	28	0	0	28		
	物質工学研究系	11	12	9	32	5	0	0	27	0	0	27		
	基礎科学研究系	9	11	0	20	3	0	0	17	0	0	17		
	人間科学系	6	9	0	15	3	0	0	12	1	0	11		
	先端機能システム工学研究系	5	6	2	13	2	0	0	11	1	0	10		
小 計		65	65	25	155	19	0	0	136	2	0	134	0	134
大学院 情報工学 研究院	知能情報工学研究系	7	8	4	19	2	1	0	16	1	2	17		
	電子情報工学研究系	6	8	2	16	3	0	0	13	0	0	13		
	システム創成情報工学研究系	7	10	3	20	3	0	0	17	0	0	17		
	機械情報工学研究系	6	9	5	20	2	0	0	18	0	1	19		
	生命情報工学研究系	7	10	5	22	2	0	0	20	0	0	20		
	人間科学系	6	5	0	11	0	0	0	11	0	0	11		
	情報創成工学研究系	7	5	3	15	2	0	0	13	0	0	13		
小 計		46	55	22	123	14	1	0	108	1	3	110	0	110
大学院 生命体工学 研究科	生体機能応用工学研究系	12	10	3	25	3	4	0	18	0	0	18		
	人間知能システム工学研究系	8	11	1	20	5	0	0	15	1	1	15		
小 計		20	21	4	45	8	4	0	33	1	1	33	0	33
学内共同 教育研究 施設	保健センター	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0		
	情報科学センター	0	2	4	6	0	0	0	6	0	0	6		
	マイクロ化総合技術センター	2	3	1	6	0	0	0	6	1	0	5		
	イノベーション推進機構	2	0	1	3	0	2	1	0	0	0	0		
	機器分析センター	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1		
	学習教育センター	0	5	3	8	2	2	3	1	0	1	2		
	宇宙環境技術ラボラトリー	0	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0		
	理数教育支援センター	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0		
	若手研究者フロンティア研究アカデミー	0	5	0	5	0	5	0	0	0	0	0		
	インスティテューショナル・リサーチ室	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0		
	安全衛生推進室	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0		
	学生総合支援室	0	2	0	2	0	0	1	1	0	0	1		
	国際戦略室	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0		
小 計		6	19	13	38	3	14	6	15	1	1	15	0	15
合 計		137	160	64	361	44	19	6	292	5	5	292	0	292

※1 「教育職員在籍者」は、平成27年4月1日現在の在職者である。

※2 職名は平成27年4月1日現在。

※3 「評価対象外の在職3年未満」とは、平成27年4月1日現在において、本学に採用されてから3年未満の教育職員

2. 5段階の総合評価:全体(292人)の割合と職階分布



3. 5段階の総合評価:職階別(人数・割合)

<総合評価>

特に優れている(特優):いずれか1つの領域で70点、又は複数領域で60点

優れている(優):いずれか1つの領域で60点、又は50点

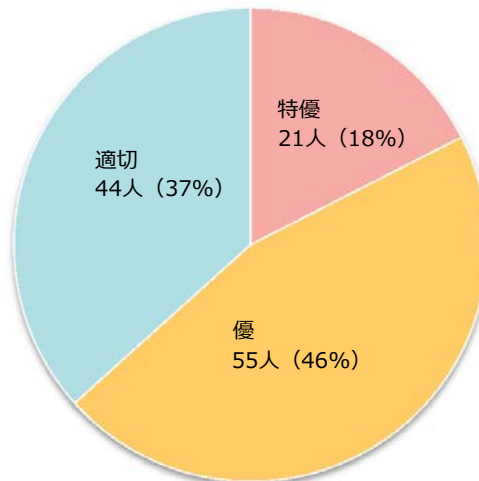
適切(適切である):30点以上50点未満

改善余地(改善の余地がある):20点以上30点未満

改善要(改善を要する):20点未満

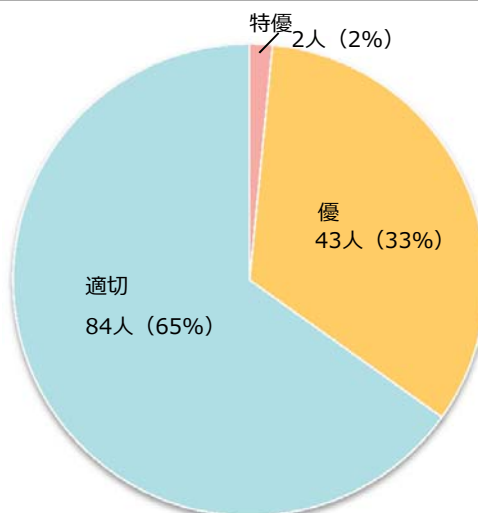
教授 (120人)

- 特優
- 優
- 適切
- 改善余地
- 改善要



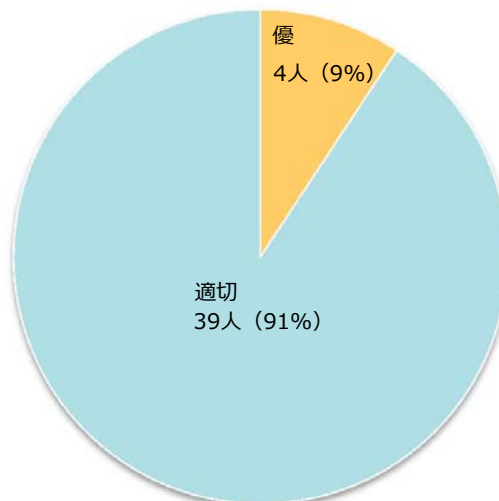
准教授・講師 (129人)

- 特優
- 優
- 適切
- 改善余地
- 改善要

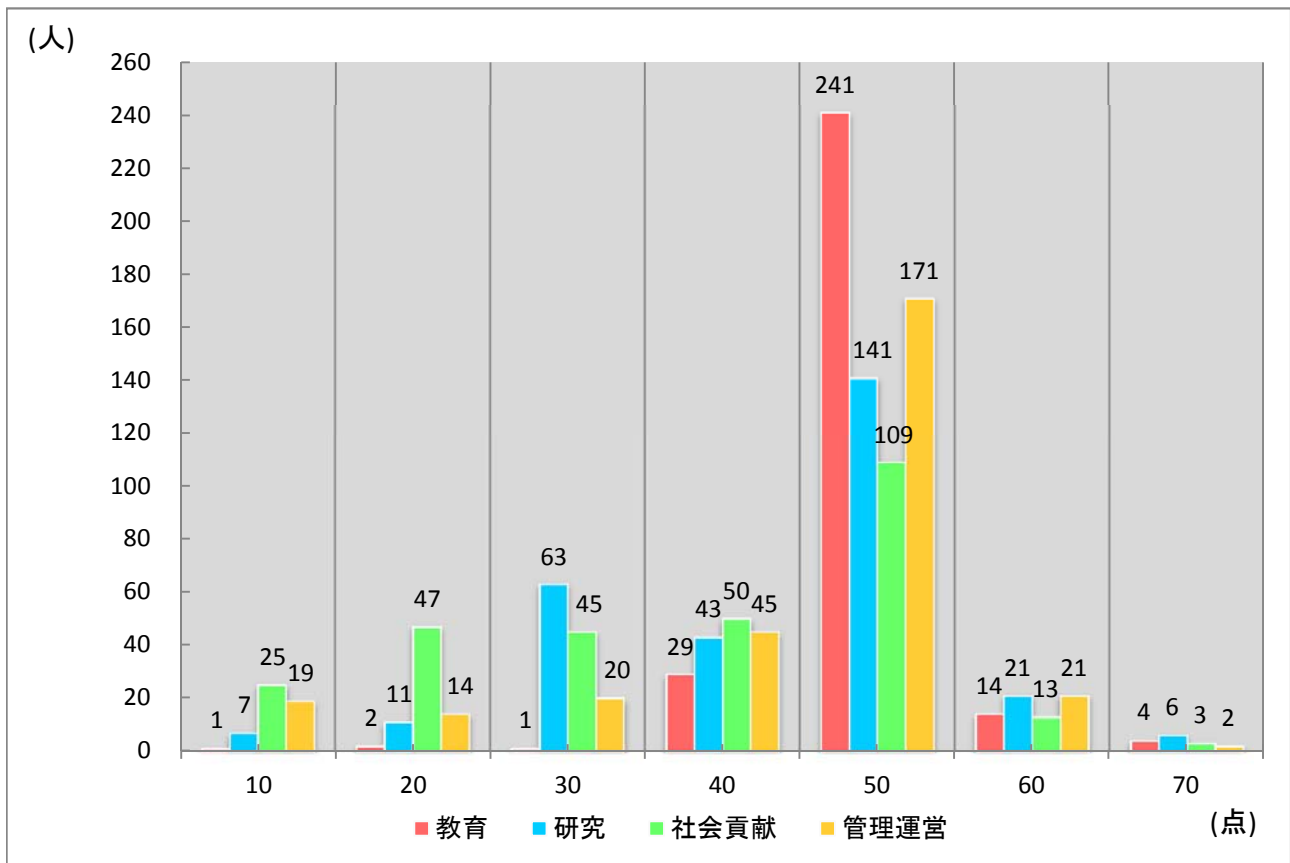


助教 (43人)

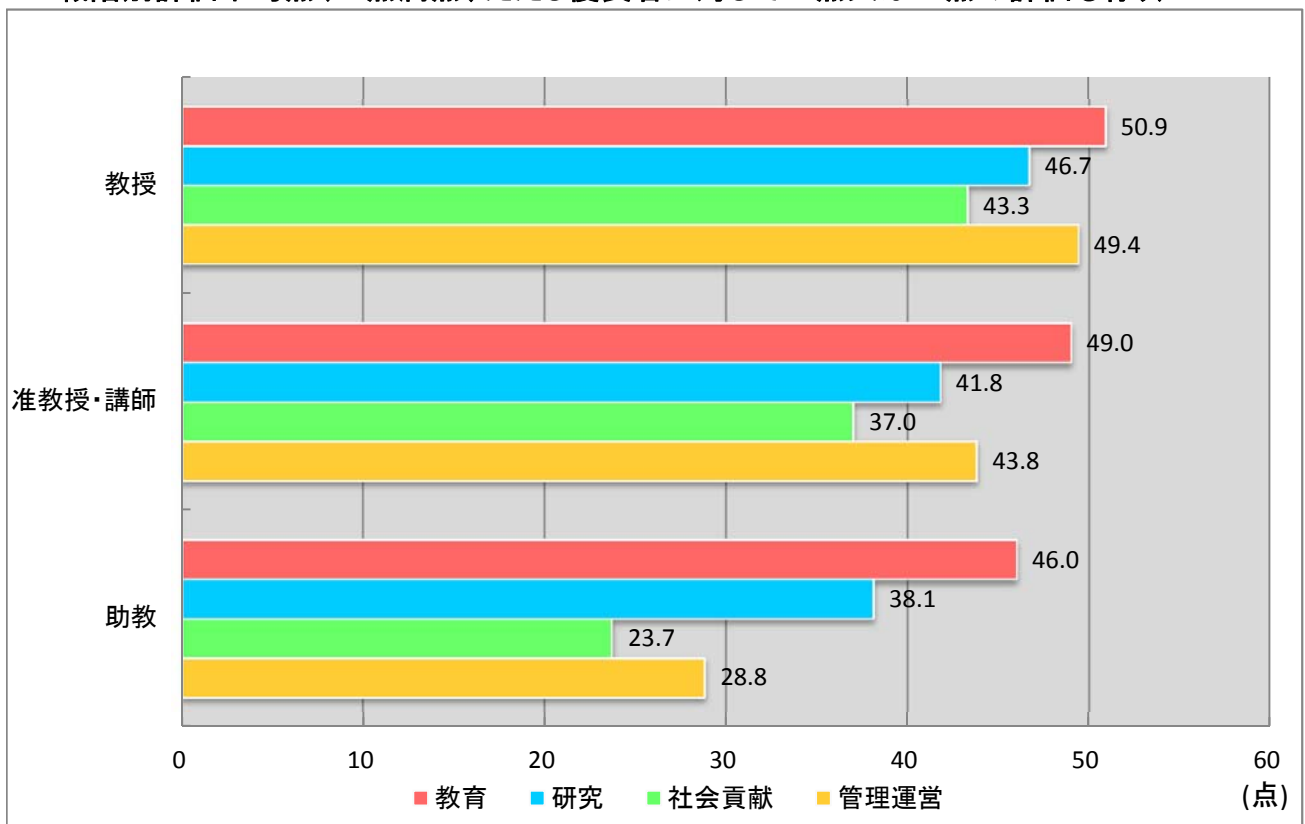
- 特優
- 優
- 適切
- 改善余地
- 改善要



4. 評点分布

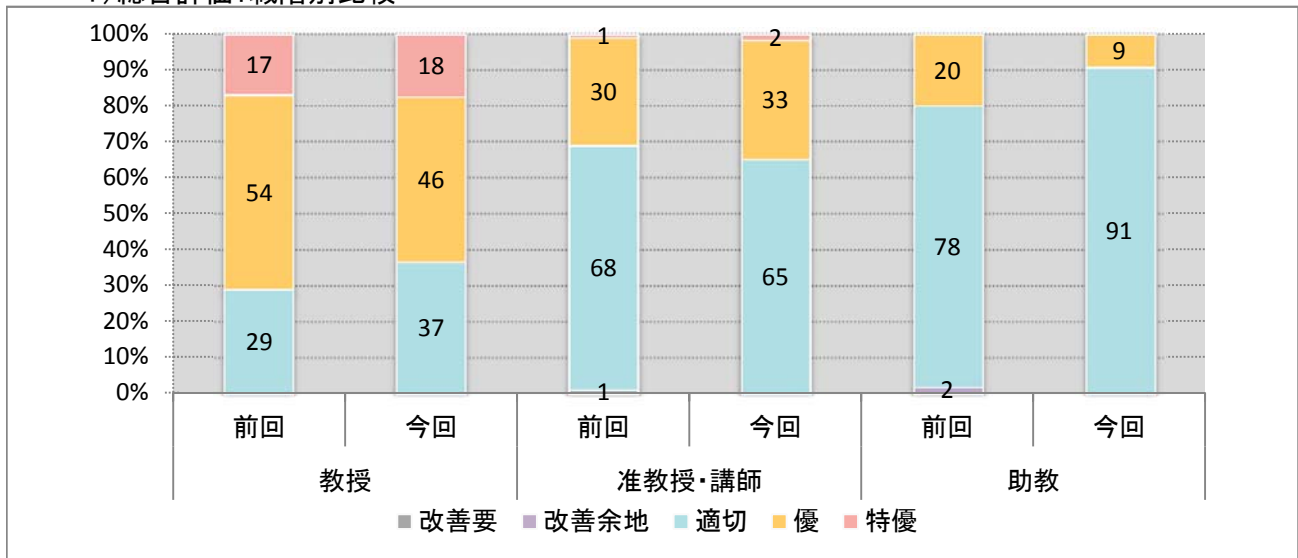


5. 職階別評価平均点 (50点満点、ただし優良者に対して70点又は60点の評価も有り)



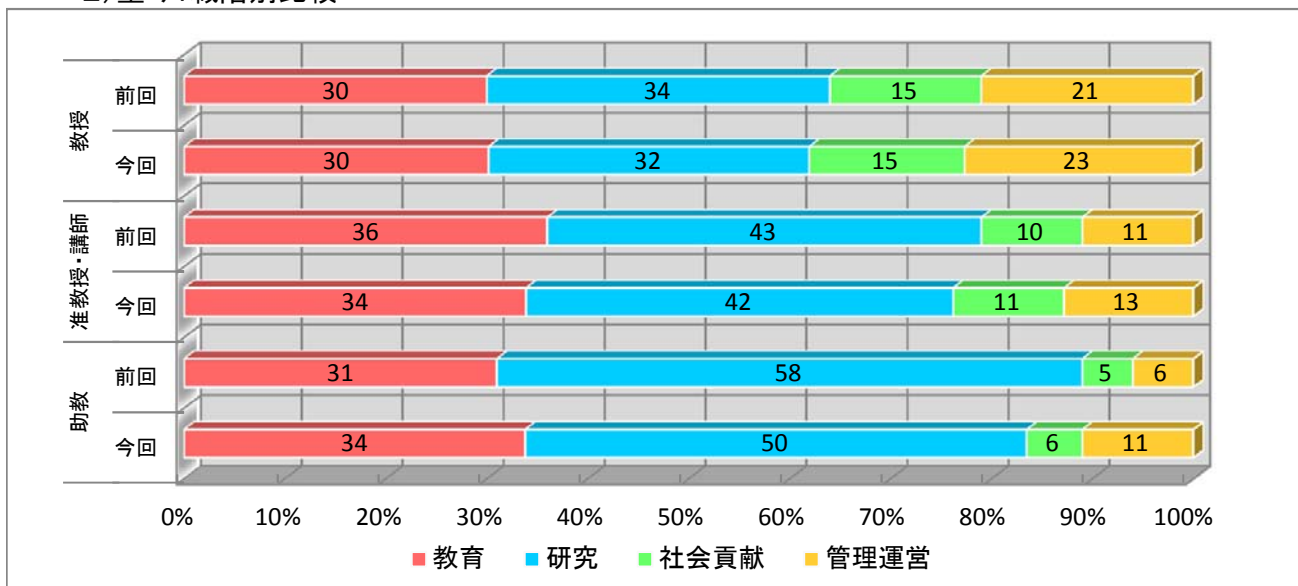
6. 前回実施との比較

1) 総合評価: 職階別比較



特優 1領域で70点又は複数領域で60点
 優 1領域で60点又は50点
 適切 30点以上50点未満
 改善余地 20点以上30点未満
 要改善 20点未満

2) 重み: 職階別比較



3) 職階別総合評価平均点

